

プログラムの概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の中でも、とくに日常診療で頻繁に遭遇する疾患・病態への対応を修得することを中心としたプログラム構成となっています。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域における、救急疾患への対応、基本的な知識、診察、手術や検査手技を習得していただきます。また、頭頸部腫瘍の入院患者担当では、全身管理および病棟での耳鼻咽喉科的処置を学習します。さらに、医療人としての基本的な姿勢、良好な医師患者関係の構築、医療面接などを、実際の現場を通して修得していくことができます。

アピールポイント

Common diseaseから耳鼻咽喉科の各専門領域の研修が幅広く研修可能となっています。まず、当科では県内の耳科手術をほぼカバーしています。慢性中耳炎から真珠腫、人工内耳(小児、成人)の手術、アブミ骨手術、顔面神経減荷術まで多彩な症例を経験できます。次に、鼻科領域では、内視鏡下鼻内手術においては、鼻中隔彎曲症、アレルギー性鼻炎の後鼻神経切断術、慢性副鼻腔炎、良性腫瘍さらに頭蓋底手術まで幅広く行っています。内視鏡手術では段階的に手技の獲得を習得していきます。また、頭頸部癌は進行症例には再建術を含めた手術や機能温存を目指した化学療法、また喉頭摘出者には積極的にTEシャントによる音声再獲得を目指しています。さらに内視鏡医と協力し早期表在癌の発見と治療にあたり、院内の嚥下障害の患者さんの嚥下機能評価(内視鏡、造影検査)を行い、リハビリテーションや治療を行っています。頭頸部癌では、研修医は病棟のチームに属し、上級医とともに入院患者の治療を担当します。さらに、外来では、めまい・難聴、アレルギー、副鼻腔嗅覚などの専門外来において、上級医とともに診察を行い外来診療を学びます。また、基本的な手術・検査は専門医の指導のもとに施行する体制が整っています。地方会での発表や全国学会に参加する機会も設けてあります。額帯鏡も支給いたします。



頭頸部癌の手術



繊細な技術を要する耳科手術

具体的な研修内容

鼻出血、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺、扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、顔面外傷など救急および急性期疾患の入院治療を担当します。頭頸部癌の症例では、化学療法や放射線療法の主治医として上級医の指導を受け、頭頸部癌の治療および全身管理を学びます。また、中耳炎の手術や鼻内視鏡手術、頭頸部腫瘍の手術の助手について、手術手技の指導を受けます。気管切開、アデノイド・扁桃摘出術、鼓膜チューブ留置術などは、指導医のもと実際に術者として治療を担当します。外来では、上級医について医療面接、診察法、検査法および診断までの道筋を学びます。



上級医は研修医にマンツーマンで手術の指導を行います



鼻内視鏡ウェットラボの様子